〈参考資料〉

全国学力・学習状況調査の結果を受けて

福島県教育庁県北教育事務所

9月　　10月　　11月　　1～2月　　4月

全教員による共通認識、共通理解

調査結果

学力の状況
- A　知識、技能の定着の状況
- B　活用に関する定着の状況

児童生徒質問紙
- 学習に対する意識の状況
- 学習生活習慣等の状況

学校質問紙
- 発表の機会
- 言語活動
- 家庭学習等の状況

分析・考察 ⇨ **実践の振り返り** ⇨ **実践事項の策定と共有** ⇨ **実践の累積**

分析

○　成果が上がったところはどこか。
○　課題があるところはどこか。
○　県学力調査に比べどこが、どう変容したか。

考察

○　成果が上がった要因は何か。
○　課題の原因は何か。
○　学力と学習・生活習慣の状況にどんな関連があるか。

○　共有し、継続することは何か。

○　学力向上グランドデザインに見直すべき点はないか。

○　めざす授業のあり方
○　具体的な方策
- 現職教育の研究内容、方法
- 学習、生活習慣づくりの方法、内容

○　少人数教育は充実し、機能しているか。

- 学習形態の工夫
- きめ細やかな指導の工夫

◇授業改善のために
- 児童生徒の主体性を発揮させる授業
- 指導のねらいを明確にした指導
- 児童生徒が主体的に取り組む言語活動の設定　等

◇　課題のある教科、領域の改善のために
- 学習内容の系統性の確認
- 重点単元の設定
- 課題克服のための手だて
- 少人数教育充実のための手だて　等

◇　授業以外の手だての改善のために
- 習熟の時間の方法、内容
- 学習環境の整備、充実
- ＰＤＣＡサイクルによる各種計画の見直し

◇　学習習慣、生活習慣の改善のために
- 教師が称賛したり、友達同士で認め合う場の設定
- 家庭学習を見取り、コメントで意欲の向上

◇　各学年担任、教科担任
- 共通実践の推進（めあて、学び合い、まとめ見取り、評価等）
- 全教科で言語活動の実践
- 実践の振り返りと改善

◇　研修主任、教務主任、学力向上担当
- 研修の仕方の工夫（ワークショップ、ＫＪ法等の実践紹介）
- 学力向上グランドデザインの推進
- 重点単元の年間指導計画への位置付け
- 有効な手だてや体制整備、教育情報の記録
- 実践の状況把握、評価、改善

◇　管理職
- 授業の指導、助言
- 組織的な取組のシステム構築
- 教育環境の整備、充実

福島県学力調査

教育課程編成・教育計画の策定（各学校実施の標準学力検査）

Ｈ２８全国学力・学習状況調査

ここでも結果を分析・考察し、さらに実践を振り返り、実践事項を策定・共有し、累積する過程を大切にしたいものです。

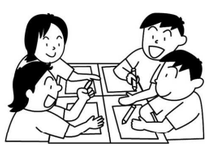
全教員で問題を解くことの大切さ
- 問題の傾向（生活に身近な出題）
- 身に付けさせたい力
- 重点的に取り組むべき単元、領域
- 言語活動の指導場面
- 児童生徒のつまずきの要因　等

これらをつかむことが、自校の学力向上改善策を進める第一歩になります。

共通実践の例

家庭学習の工夫・改善

家庭学習の手引き等を利用して計画的な学習を奨励し、提出されたノート等へ必ず目を通し、一人一人の状況を見取り、コメントを書くことで学習意欲の向上を図るようにする。



適用・習熟の時間の充実

教科や学習内容に応じることにより、終末段階等で適用問題に取り組ませ、本時の学習内容の定着状況を評価し、補充指導と次時の授業構想に生かす。

定着確認シートの活用

定着確認シートに取り組みやすい状況を作り、計画的に実施することにより、学力の状況を確認するとともに、指導内容、方法を振り返る機会とする。

各教科における言語活動の充実

次の２点を特に意識して言語活動を設定する。
- **指導のねらいを明確にする。**
- **児童生徒が主体的に取り組む。**

具体的には、次の点に配慮する。
1　めあてを「問い」の形にする。
2　多くの生徒に発言させる機会を設ける。
　①　思考を促す発問
　②　発言をつなぐ働きかけ
　③　思考する時間の確保
3　生徒同士の交流の場を設ける。
　（ねらいを明確にする。）

学習形態の工夫

つまずきやすい単元には、T.T指導や習熟度別学習を取り入れるなどして、個に応じた指導を充実させる。
ペア、グループでの話し合い等の学び合い活動は、そのねらいを明確にし、児童生徒の思考を深めるようにする。

年間指導計画の完全実施と改善

年間指導計画を計画通り完全に実施する。
また、各学校の課題に基づき、学習内容の系統性を確認し、重点単元として年間指導計画に位置付ける。

授業改善については、県北教育事務所で発行している参考資料「確かな学力」の向上のために」を参考にしてください。